

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東京大学肝胆膵・人工臓器移植外科での国内外科研修を終えて

琉球大学消化器・腫瘍外科

知念 徹

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度で2024年9月2日から9月6日までの期間、東京大学肝胆膵・人工臓器移植外科において国内研修をさせていただきました。このような貴重な機会をあたえてくださいました、日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長に深く御礼申し上げます。そして、研修を快く受け入れて頂いた東京大学肝胆膵・人工臓器移植外科の長谷川潔教授をはじめ、研修中にご指導頂いた高本健史先生、三原裕一郎先生、風見由祐先生、桐谷翔先生、そして医局員の先生方に感謝申し上げます。

私の所属する琉球大学病院では高槻教授が就任した令和元年より生体肝移植を導入し、現在まで33例に肝移植を施行しました。肝移植手術が始まったことで、当院では以前より高難度肝胆膵外科手術は増加しましたが、まだまだhigh volume centerとは言えない状況です。東京大学病院は国内有数の肝移植実施施設であり、また数多くの肝胆膵手術、低侵襲手術を施行されており、ぜひ一度研修させて頂きたいと考えまして今回研修する機会を頂きました。

初日は副医局長である風見由祐先生よりご案内頂き、早速生体肝移植を見学させて頂きました。アルコール性肝硬変患者の拡大左葉graftを用いた生体肝移植症例でした。手術室でのdonor, recipientの部屋が隣り合わせでしたので交互に見学させて頂きました。朝8時に入室しそれぞれの手術が開始され、13時にはgraftが摘出され、14時にはput in、18時頃に手術が終わり、スピーディかつ丁寧な手術手技に感銘を受けました。また、バックテーブルでは長谷川潔教授と6、7年目の先生方が肝静脈形成を行われており、手技中も先生方が明るく楽しそうに会話されている姿がとても印象的でした。

翌日は朝8時から術前カンファレンスを見学しました。カンファレンスは週に2回、火曜、木曜で行われ、それぞれ水曜、金曜・月曜の症例のプレゼンテーションをされていました。また、東京大学病院では国外からの見学者も多数おられ、そのため術前カンファレンスは基本的に英語でプレゼンテーションされているとのことでした。16時からは赤松延久准教授を中心とした肝移植後患者のカンファレンスを行い、入院経過について情報を共有していました。手術等で参加できない日を除きこのカンファレンスは毎日行われており、肝移植後の患者において日々の些細な変化を見逃さないとする熱意を感じ、感銘を受けました。東京大学病院では5-6名のチームが4つあり、各チームで肝移植、肝胆膵外科手術をこなされており、それぞれのチームで術後管理を行い、カンファレンスで情報共有されていました。

3日目はロボット支援下膵頭十二指腸切除手術を見学させて頂きました。東京大学肝胆膵・人工臓器移植外科には低侵襲手術チームがあり、近年低侵襲手術の件数が増加しております。河口義邦准教授には、セッティングから術野展開等、手術中にも関わらず丁寧に教えて頂きました。琉球大学病院では2023年にロボット支援下膵切除を導入しましたが、まだPDの経験がなく、また私自身、ロボット支援下PDを見たことがありませんでした。実際見学させて頂くと、出血が少なくドライな術野で手術が進行し、PDにおいても出血を最小限に抑えた繊細な手術を目の当たりにし、術後合併症もほとんどなく患者さんは早期に退院されているようで、肝胆膵領域においても今後低侵襲手術が発展していくのだと改めて実感しました。

研修5日目で、幸運なことに脳死肝移植を見学することができました。前日に先生方は3-4人のチ

ームで graft 採取に向かい、脳死 donor の肝臓摘出を 7 年目の先生が上級医と一緒にされているとのこと、また recipient 手術を執刀されることもあるようで、積極的に若手に手術を回されているという印象を受けました。Recipient は朝 6 時に入室し 8 時に執刀開始され、11 時には全肝摘出されていました。12 時に graft が届いて 7 年目の先生が静脈形成を上級医指導のもと行い、put in、再建と見学させて頂きました。琉球大学病院では 2024 年現在、脳死肝移植実施施設ではなく、私自身脳死肝移植を見たことがありませんでしたので大変勉強になりました。

同行させて頂いた高本先生、三原先生チームの先生方にはお忙しい中食事会を企画して頂きまして、ありがとうございました。先生方の面白いエピソードなど笑いながらお聞きし、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。また機会がありましたら、ぜひよろしくお願ひ致します。

今回の研修を通して、改めて外科医として精進していく決意が強まり、今後の外科医人生の大きな糧となり、モチベーションが高まりました。大変貴重でありがたい機会であったと感じております。

最後に、今回私をご推薦頂いた琉球大学消化器・腫瘍外科の高槻光寿教授、快く送り出してくださいました当院医局員の先生方に感謝申し上げます。